①	②	③
イ	ほかの 人が こころの 中で かんがえて いる ことが わかったり、見えない ものを 見る ことが できたり、手で さわらないで ものを うごかしたり できる	まだ わかりません

［かいせつ］

（2）と（3）は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

あなたに もし(2)ちょうのうりょくが あるとすれば、ほかの 人が こころの 中で かんがえて いる ことが わかったり、見えない ものを 見る ことが できたり、手で さわらないで ものを うごかしたり できるでしょう。

ちょうのうりょくを もって いると いう人は むかしから います。しかし、(3)ちょうのうりょくが ほんとうに あるか どうかは まだ わかりません。

①	②	③
イ	ア	れいど

［かいせつ］

（1）と（3）は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

（1）さむい ふゆなど 気おんが ひくい ときには 雨に なる ことが なく、こおりの けっしょうの まま ぱらぱらと ふって くる ものを ゆきと いいます。

ゆきは、くもの 中の 水じょう気が こおって できた こおりの けっしょうです。

（3）だいたい、ちじょうの 気おんが れいどよりも ひくい ときに ゆきと なります。

（2）ゆきが ふって くる ようすを あらわす ことばが 入ります。イの ひゅうひゅうは かぜが ふく ようすを あらわすとき、ウの ざあざあは 雨が ふる ようすを あらわす ときに よく つかわれます。

(1)	(2)	(3)
ほかの 人が こころの 中で かんがえて いる ことが わかったり、見えない ものを 見る ことが できたり、手で さわらないで ものを うごかしたり できる 力	むかしから	まだ わかりません

［かいせつ］

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1)ほかの 人が こころの 中で かんがえて いる ことが わかったり、見えない ものを 見る ことが できたり、手で さわらないで ものを うごかしたり できる 力の ことを ちょうのうりょくと いいます。

(2)ちょうのうりょくを もって いると いう 人は むかしから います。しかし、(3)ちょうの うりょくが ほんとうに あるか どうかは まだ わかりません。

①	②	③
ウ	ゆきは、くもの 中の 水じょう気が こおって できた もの	れいど

［かいせつ］

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1) さむい ふゆなど 気おんが ひくい ときには 雨に なる ことが なく、こおりの けっしょうの まま ぱらぱらと ふって くる ものを ゆきと いいます。

(2) ゆきは、くもの 中の 水じょう気が こおって できた こおりの けっしょうです。

(3) だいたい、ちじょうの 気おんが れいどよりも ひくい ときに ゆきと なります。

①	②	③
ちゅうごく	むかしから　せんそうの　ために　つかわれて　きました	イタリア

［かいせつ］

文しょうの　つぎの　ばしょに　かかれて　います。

なつの　よ空に　かかせない　ものの　一つと　して、花火が　あります。花火には　いろいろな　大きさや　かたちが　あります。

(1)花火に　なくては　ならない　火やくは、ちゅうごくで　はつめいされました。(2)火やくは、むかしから　せんそうの　ために　つかわれて　きました。

(3)火やくを、花火として　つかい　はじめたのは、イタリアだと　いわれて　います。

①	②	③
ちゅうごく	むかし から　せんそう の ために　つかわれて　きました	イタリア

［かいせつ］

文しょうの　つぎの　ばしょに　かかれて　います。

なつは　花火たいかいが　いろいろな　ところで　おこなわれます。せんこう花火や　ねずみ花火で　たのしんだ　人も　いるのでは　ないでしょうか。

そんな ①花火に　なくては　ならない　火やくは、ちゅうごくで　はつめいされました。②火やくは、むかしから　せんそうの　ために　つかわれて　きました。

③火やくを　花火として　つかい　はじめた　くには　イタリアだと　いわれて　います。

①	②	③
ウ	おそなえを して、うたや おどりで かみさまを むかえると いう しゅうきょうてきな ものの	せかいの かくち

［かいせつ］

（1）おまつりを たのしみに する ようすを あらわす ことばが 入ります。

（2）と （3）は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

おまつりと きくと たのしみで、なんだか わくわく して きます。たくさんの 人が あつまって 大さわぎを したり、ごちそうを たべたり するからでしょうか。

(2)おまつりは、もともとは おそなえを して、うたや おどりで かみさまを むかえると いう しゅうきょうてきな ものでした。

おまつりの ない くにや みんぞくは ありません。(3)おまつりは、せかいの かくちに あるのです。

(1)	(2)	(3)
その じだいの あたらしい 音がくを たくさん つくったから	六百いじょうの きょく	ア

［かいせつ］

(1)と (2)は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

モーツァルトと いう 音がくかを しって いますか。(1)モーツァルトは、天さいと いわれて います。その じだいの あたらしい 音がくを たくさん つくったからです。(2)なくなるまでの 三十五年かんで 六百いじょうもの きょくを つくって いるのです。それは いまも のこって います。

モーツァルトが なくなってから 二百年いじょうが たちました。いまでも たくさんの 人が モーツァルトの きょくを きいて います。

(3) モーツァルトは いまに のこる きょくを たくさん つくって いるので、いまでも たくさんの 人に きかれて います。

①	②	③
たくさんの 人が あつまって 大さわぎを したり、ごちそうを たべたり するから	おそなえを して、うたや おどりで かみさまを むかえると いう しゅうきょうてきな ものの	せかいの かくち

［かいせつ］

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1) おまつりが ちかく なると、わくわくして きます。たくさんの 人が あつまって 大さわぎを したり、ごちそうを たべたり するからです。

(2) おまつりは、もともとは おそなえを して、うたや おどりで かみさまを むかえると いう しゅうきょうてきな ものでした。

(3) おまつりの ない くにや みんぞくは ありません。おまつりは、せかいの かくちに あるのです。

①	②	③
二百年いじょう	その じだいの あたらしい 音がくを たくさん つくったから	六百いじょうの きょく

［かいせつ］

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1)モーツァルトが なくなってから 二百年いじょうが たちました。いまでも たくさんの 人が モーツァルトの きょくを きいて います。(2)モーツァルトと いう 音がくかは 天さいと よばれて います。その じだいの あたらしい 音がくを たくさん つくったからです。(3)モーツァルトは、なくなるまでの 三十五年かんで 六百いじょうもの 名きょくを つくって います。

(1)	(2)	(3)
しっぽ のような せん を ひきながら、ひかって とんで いく もの	三 かい	イ

[かいせつ]

(1)と(2)は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

よるの 空を みつめて いると、(1)しっぽのような せんを ひきながら、ひかって とんで いく ものが きゅうに あらわれる ことが あります。これが ながれぼしです。

ながれぼしが ひかって いるのは、わずか一びょうほど。(2)その ながれぼしが きえないうちに ねがいごとを 三かい いうと、それが かなうと いわれて います。

(3) 一びょうほどと いう すくない じかんを あらわす ことばが 入ります。

①	②	③
三かい	しっぽのような せんを ひきながら、ひかって とんで いく もの	ウ

［かいせつ］

（1）と（2）は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

（1）ながれぼしが きえない うちに ねがいごとを 三かい いうと、それが かなうと いわれて います。

（2）ながれぼしとは、よるの 空を みつめて いると、しっぽのような せんを ひきながら、ひかって とんで いく ものです。

ながれぼしが ひかって いるのは、わずか一びょうほど。だから、三かいも ねがいごとを いうのは とても むずかしい ですね。

（3）わずかな じかんに 三かいも ねがいごとを する ことの たいへんさを あらわす ことばが 入ります。

(1)	(2)	(3)
人げん どうぶつ	人げんや どうぶつ と おなじ ような うごき	こうじょう

[かいせつ]

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1) ロボットは、人げんや どうぶつの すがたや かたちを して いる きかいです。そして、(2) 人げんや どうぶつと おなじような うごきを します。(3) また、人げんの かわりに、こうじょうで じどうてきに はたらく きかいも ロボットと いいます。

①
イ
②
ア
③
イ

［かいせつ］

（１）のはら一めんに タンポポが さいて いるので、きいろい じゅうたんの ように 見（み）えます。

（２）ちょうちょうが とんで いる ときの はねの ようすを あらわす ことばが 入ります。

（３）おひさまの ひかりが さして、あたたかく なる ようすを あらわす ことばが 入ります。

①	②	③
人げんや どうぶつ と おなじ ような うごき	人げん どうぶつ	こうじょう

［かいせつ］

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1) 人げんや どうぶつと おなじような うごきを する きかいの ことを ロボットと いいます。(2) ロボットは 人げんや どうぶつの すがたや かたちを して います。

(3) また、人げんの かわりに、こうじょうで じどうてきに はたらく きかいも ロボットと いいます。

①
ウ
②
ア
③
ア

［かいせつ］

（1）のはら一めんに　タンポポが　さいて　いるので、きいろの　じゅうたんの　ように　見（み）えます。

（2）ちょうちょうが　とんで　いる　ときの　はねの　ようすを　あらわす　ことばが　入ります。

（3）タンポポが　さいたり、ちょうちょうが　とんだり　する　あたたかい　きせつが　入ります。

①	②	③
さんすうの きょうかしょ	ウ	ウ

［かいせつ］

（１）は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

ぼくは いえに かえってから、学校に①さんすうの きょうかしょを わすれた ことに 気づきました。

（２）あしたまでの しゅくだいを やらなければ いけないのに、さんすうの きょうかしょを わすれて どうしようと いう 気もちが 入ります。

（３）「ぼくは 学校に むかった」と 文しょうに かいて あるので、とりに いこうと いう ことばが 入ります。

①	②	③
こくごの きょうかしょ	ア	イ

［かいせつ］

（１）は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

わたしは いえに かえってから、学校に こくごの きょうかしょを わすれた ことに 気づきました。

（２）あしたまでの しゅくだいを やらなければ いけないのに、こくごの きょうかしょを わすれて どうしようと いう 気もちが 入ります。

（３）「おかあさんに おねがいを した」と 文しょうに かいて あるので、おかあさんに とりに いって もらおうと いう ことばが 入ります。

①	②	③
ア	小さい わたげが たくさん あつまって できて いる	かぜに のって たねを はこびます

［かいせつ］

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

タンポポは はるに きいろい 花を さかせます。そして、花が かれた あとには、白い わたげが できます。(1)わたげは とおくから 見ると 一つの まるい ボールのように 見えます。でも、ほんとうは(2)小さい わたげが たくさん あつまって できて いるのです。小さい わたげが かぜに ふかれて ふわふわと とんで いくのを みなさんも 見た ことが あるのでは ないでしょうか。

わたげの ひとつひとつには、タンポポの たねが ついて います。(3)わたげは、かぜに のって たねを いろいろな ばしょに はこびます。

(1)	(2)	(3)
五日	エ	草のにおい

［かいせつ］

(1)と(3)は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1)みな子の かい犬の チロが ゆくえふめいに なってから 五日が たちました。

みな子が 学校から かえると、げんかんから チロが げん気に とびだして きました。

「チロ。」

みな子は うれしく なって さけびました。

(3)チロを だきしめると、草の においが します。

(2)ア・イ・ウも 文しょうの 中に かいて ありますが、うれしく なったのは ゆくえふめいの チロが かえって きたからです。それは ひさしぶりに チロを 見て うれしく なって さけんで いる ことから わかります。

①	②	③
はるに さく、きいろい 花	ウ	わたげ

［かいせつ］

（1）と（3）は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

（1）タンポポは はるに さく、きいろい 花です。花が かれると、白い わたげが できます。これは とおくから 見ると 一つの まるい ボールのように 見えます。でも ほんとうは、小さい わたげが たくさん あつまって できて います。小さい わたげは かぜに ふかれて、ふわふわと とんで いきます。

（3）わたげの ひとつひとつには、タンポポの たねが ついて います。わたげは かぜに のって、たねを いろいろな ばしょに はこびます。

（2）わたげが かぜに ふかれて いる ようすを あらわす ことばが 入ります。

①	②	③
タマ	ア	うみ

［かいせつ］

(1)と(3)は 文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1)たけしの かいねこの タマが ゆくえふめいに なってから 三日が たちました。

たけしが 学校から かえると、げんかんから タマが げん気に とびだして きました。

「タマ。」

たけしは うれしく なって さけびました。

タマを だきしめると、うみの においが します。タマの くびわを 見ると きれいな 貝が らが 一つ はさまって いました。(3)もしかしたら、タマは うみへ いって いたの かも しれません。

(2)ゆくえふめいに なって いた タマが かえって きた ことで、たけしは うれしく なったので こたえは アに なります。

①	
はる	なつ
あき	ふゆ

②	③
インドネシア	グリーンランド

［かいせつ］

文しょうの つぎの ばしょに かかれて います。

(1)日本には、四きが あります。四きとは、はる、なつ、あき、ふゆの 四つの きせつの ことです。はるは あたたかく、なつは あつく、あきは すずしく、ふゆは さむいと いうように、きせつに よって 気おんが かわります。でも、日本のような 四きが ない くにも あります。たとえば、(2)インドネシアと いう くにでは一年じゅう、二十五どを こえる あつい 日が つづきます。(3)また、グリーンランドと いう くにでは 一年じゅう ゆきと こおりが じめんを おおって います。

①	②	③
きせつ	一年じゅう　じめんが ゆき　と　こおり　で おおわれた　くに	一年じゅう　気おんが 二十五ど　を　こえる あつい　日　が　つづく　くに

[かいせつ]

文しょうの　つぎの　ばしょに　かかれて　います。

(1)日本には、四きが　あります。四きとは、はる、なつ、あき、ふゆの　四つの　きせつの　ことです。はるは　あたたかく、なつは　あつく、あきは　すずしく、ふゆは　さむいと　いうように、きせつに　よって　気おんが　かわります。

でも、せかいには、日本のような　四きが　ない　くにも　あります。たとえば、(2)グリーンランドと　いう　くにでは、一年じゅう　じめんが　ゆきと　こおりで　おおわれて　います。また、(3)インドネシアと　いう　くにでは、一年じゅう、気おんが　二十五どを　こえる　あつい　日が　つづきます。